

令和6年 飯田市教育委員会2月定例会会議録

令和6年2月16日（金） 午後 3時00分開会

【出席委員】

教育長	熊谷 邦千加
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	三浦 弥生
教育委員	林 綾子
教育委員	野澤 稔弘

【出席職員】

教育次長	秦野 高彦
学校教育課長	福澤 好晃
学校教育専門幹	今井 栄浩
生涯学習・スポーツ課長	伊藤 弘
文化財保護活用課長兼考古博物館長	宮下 利彦
市公民館副館長	上沼 昭彦
文化会館館長	下井 善彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長兼歴史研究所副所長	牧内 功
学校教育課長補佐兼総務係長	櫻井 英人
学校教育課教育企画係長	倉田 奨

日程第1 開 会

○教育長（熊谷邦千加） それでは日程第1、開会。ただいまより令和6年2月定例会を始めます。よろしくお願いいたします。

日程第2 会期の決定

○教育長（熊谷邦千加） 日程第2、会期の決定。2月定例会の会期を本日1日といたしますが、よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（熊谷邦千加） 日程第3、会議録署名委員の指名。会議録署名委員を三浦弥生教育委員にお願いしたいと思います。

◇教育委員（三浦弥生） はい。

○教育長（熊谷邦千加） よろしく申し上げます。

日程第4 会議録の承認

○教育長（熊谷邦千加） 日程第4、会議録の承認。1月定例会の会議録をご確認いただきたいと思えます。何かご意見がありましたらお願いいたします。

（「特にありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、日程第5、教育長報告事項。

別紙をご覧ください。

1月21日に、藤本四八小中高校生の写真展の表彰式があつて、前田さんという鼎中学校の一年生が、雨上がりに住宅街の道路で見つけた水たまり、道路に残った水が映し鏡のように風景を反転させて写してある。そんな素敵な写真が藤本四八記念賞に輝きました。

応募作品はそこにあるとおりで、若干少なくなったんですが、応募者は増加をしていて、審査員の水谷さんがおっしゃるには、「やっぱり一人で複数出したほうがいい」というよ

うな、そんなお話もありました。それから、昨年は小学校の作品が素晴らしいなと思ったんですが、今年は中学校の作品がいい作品がいくつも出てきたなという感じがありました。今、展示は飯田信用金庫本店で展示をしています。3月9日からは美博のロビーで展示という予定になっています。また、機会がありましたらご覧をいただきたいなと思います。

2つ目は、「下伊那全郡教科等研究のまとめの会」というのが行われました。

これは下伊那教育会の先生方が集まっての会です。国語、算数、社会、理科というように、各教科等のグループに分かれて調査・研究を進めていて、それを実践発表したりするものなんです。コロナ禍でできなかったこともあって、昨年から自分たちで発表したい委員会が発表するというような形で、子どもたちだけじゃなくて、先生方も「主体的に」っていう意図で行われました。

私は、たまたまお邪魔したのは座光寺小で行われた算数・数学と理科ですけれども、算数の場合は小グループに分かれて議論で、「授業のまとめと振り返り」というふうに、テーマを決めて協議をしていました。そこで思ったのは、やっぱり若い先生方とベテランの先生方が一堂に会し、経験を話して、課題を共有すること、例えば、「私だったらこんなふうにしたよ」とか「しているよ」という話があるのがその場で共有される、それが一番大事なかなと。逆に言えば学校現場でなかなかそういうことが少なくなってるのかなあ。子どもたちが減るということは教員も減るので、同教科の人数も減ることになっていますので、こういう場面は大事だなと思いました。

それから三穂小学校の150周年記念を含めた地区の文化祭で、これは南信州新聞にも載っていましたけども、伊豆木人形浄瑠璃が披露されました。私が観たのは「三番叟」ですが、小学生の頃に教わった有志の皆さんが、午後からまた違う演目が行われたようですけども、復活させて観ることができました。

それから4つ目の外国人の日本語スピーチ大会ですけれども、一般の部で6人、小学校で4人の発表で行われました。優秀賞は「私の第二の故郷 日本」という題で片桐（ジョ）桂子（ウンケイ）さんという方でした。その内容は日本に来て全く言葉が分からない、買い物にも行けないっていう中で、日本のボランティアなどの方に非常に優しく接してもらって救われたと。日本には温泉、花見、お祭りとお宝がたくさんあるので、3年前から豊丘村の介護施設で働いていらっしゃるようなんですが、「周りの方たちの義理人情が厚い中で、笑顔で働いている」と、そんな内容のことを日本語で発表されました。

小学生の部では、最年少の二年生の女の子が、「今を大切に」っていうことで意見発表したんですけど、この子、全部の原稿を頭に入れていてびっくりしました。なかなかそこま

ではできないわけですが、そんなところに大変感銘を受けました。

そのほか、またキャリア教育の推進フォーラムとかも参加された方とか、また後でご報告等いただければと思います。

何かご質問ございますか。

よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長(熊谷邦千加) はい、ありがとうございました。

日程第6 議案審議(3件)

○教育長(熊谷邦千加) 続いて日程第6、議案審議。本日は3件の議案について審議をいただきます。

議案第4号 令和5年度飯田市就学援助費支給対象者(要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係)の認定について

○教育長(熊谷邦千加) 最初に議案第4号、「令和5年度飯田市就学援助費支給対象者(要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係)の認定について」。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長(福澤好晃) それでは議案第4号、令和5年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について、4ページをお願いいたします。

認定対象者は、別冊でご用意をいたしましたとおりでございます。それぞれ記載をいたしました認定要件にて、認定をいただきますようご提案を申し上げます。

説明は以上になります。お願いいたします。

○教育長(熊谷邦千加) ただいま説明のありました議案について、ご質問、ご意見がありましたらお願いをいたします。

(「ありません」との声あり)

○教育長(熊谷邦千加) お認めいただいたということで理解をさせていただきます。

議案第5号 教育功労表彰者の決定について

○教育長(熊谷邦千加) 続きまして議案第5号、「教育功労表彰者の決定について」。

伊藤生涯学習・スポーツ課長。

◎生涯学習・スポーツ課長(伊藤 弘) それでは資料5ページをお願いいたします。

本案は、教育功労表彰者の決定についてございまして、議案に記載の方を教育功労者に決定したいとするものでございます。

功労内容に記載がありますとおり、教育・文化振興のために飯田市美術博物館に絵画1点をご寄贈いただいたものでございます。飯田市教育功労者表彰規程の基準を満たしており、同規程の第3条の規定によりまして、教育功労者育に決定したく提案するものでございます。

よろしく願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ただいま説明のありました、議案第5号につきまして、ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

（「特にございません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） お認めいただきました。ありがとうございます。

議案第6号 飯田市体育施設条例施行規則の一部を改正する規則の制定について

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして議案第6号、「飯田市体育施設条例施行規則の一部を改正する規則の制定について」。

伊藤生涯学習・スポーツ課長。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤 弘） それでは資料6ページをお願いいたします。

飯田市体育施設条例施行規則の一部を改正する規則の制定についてでございますが、この規則につきましては、体育施設条例に規定をしてあります、社会体育施設の管理等に関して、必要な事項を定めているものでございます。

今回の改正につきましては、指定管理者制度を導入した際に、別の条例に移行している体育施設に関する規定がまだ現在残っているため、削除し、現行の条例に対応した内容となるように改正をするものでございます。

改正の内容につきましては、次の7ページの新旧対照表をご覧ください。

第3条につきましては、施設の使用申請を行った者への使用許可証の交付について定めているものでございますけれども、右側の現行の欄の下線部分に記載があります、飯田市営市民プール、飯田運動公園プール及び飯田市総合運動場、この3つの施設に関して規定している但書きを全て削除いたします。

同じく同条第2項につきましては、施設の使用する際に許可証等の提示について定めているものでございますけれども、プールの入場券に関する規定が残っているため、下線部分の「又は入場券」の部分を削除いたします。

附則は、施行期日を定めるものでございます。

本来でありましたら、指定管理制度を導入した時点の条例改正に併せて規則を改正すべきものでございましたけれども、手続きが遅れましたことをお詫び申し上げたいと思います。

以上、よろしく願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ただいま説明のありました議案第6号について、ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

（「特にありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） お認めいただいたということで進めたいと思います。ありがとうございます。

日程第7 協議事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて日程第7、協議事項。

（1）令和5年度卒業式及び令和6年度入学式について

○教育長（熊谷邦千加） 令和5年度卒業式及び令和6年度入学式について。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） それでは、令和5年度の卒業式及び令和6年度の入学式について、資料No.1の8ページをお開きいただければと思います。

こちらは、前回の定例会でお願いをいたしまして、それぞれ教育委員の皆様よりいただきました卒業式へのご出席にかかるスケジュール、こちらを基に各小中学校の卒業式に割り振りをさせていただいた一覧になります。

9ページは、それぞれ参列者ごとにまとめた一覧になりますので、そちらでご確認をいただくと見やすくなっておりますのでよろしくお願いいたします。

それから先に説明をさせていただきますが、おめくりいただきまして10ページから11ページ、こちらは同じく、令和6年度の入学式について一覧表を作成させていただいております。

11ページ目が同様にそれぞれ参列者ごとに記載をさせていただいております。なお、それぞれ卒業式・入学式ともに集合時間、集合場所、それから開始時間、記載をしておりますが、詳細につきましては各学校から案内状が届き次第、それぞれ参列いただく教育委員の皆様にお送りをいたしますので、そちらにてまた詳細のご確認をお願いいたします。

12 ページから 13 ページには、それぞれ小学校・中学校用の告辞文を付してございます。
12 ページ目が小学校、13 ページ目が中学校用でございます。また、ご一読をいただければ
と思います。

それから 14 ページ目には、各学校の会場のイメージ図を付しております。また、参考ま
でに服装ですとか、下には①から⑨まで所作等の例も記載しておりますので、参考にご覧
いただければと思います。

私からの説明は以上になります。ご確認、それから質問等がございましたらよろしくお
願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） はい。それでは最初に卒業式 8・9 ページ、入学式 10・11 ページの分
担についてのご質問、何か不都合な点等ありましたらお出しをいただければと思いますが、
いかがでしょうか。

ご自身のところは、9 ページと 11 ページを見ていただくほうが分かりやすいと思います。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 細かい話でいいですか。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 14 ページのところですか。主催者側だからこういう配置で教育
委員会として参加するのですが、来賓席が向かいにあたりますよね。来賓の皆さんがこち
ら側に礼をされる時、自分が校長だった頃の記憶でいくと、来賓の皆さんがこっちに向
かって礼をされる時に、校長・教頭もこっちの席で立って、来賓の方の礼を受けて返礼
をし、自席に着かれるまで立っていて、その後、こちらも着席するという流れなんですけ
れど、そのとき、今年度からは教育委員会も校長先生の横にいる。主催者としてどうい
う所作をしたらいいかという話です。校長・教頭は立ちますが、教育委員会は座ったまま、
来賓の方に対して黙礼で返すということがいいですかね。細かい話ですが、儀式的行事の
大事な式なので。

◇教育委員（三浦弥生） 来賓の方がお話されている間も立って聞いておられる。そうではな
く

◇教育長職務代理者（北澤正光） それはないかなと思うのですが。

◇教育委員（三浦弥生） 一度立つ。

○教育長（熊谷邦千加） 立って演台に行く前に礼をしますよね。そのときに校長は大體、教頭
までは立つかはどうかはいろいろあるんですけど、一応立って、一番正式な形で礼を受け
る。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 来賓の方の礼を受けるのです。壇上でごあいさつされて戻っ

てきて、最後に自席に戻られるときに学校側の席を向いて礼をされるので、それを受ける形で立って返礼をして来賓の方が着座されると、その頃合いを見計らって校長も座るといのが今までのパターンなのですけれど、そのとき今度教育委員会のその横にるので、校長先生が代表として立っていただくというのが一番自然なのかなと思うのですけれど。

○教育長（熊谷邦千加） 何かご意見ありますか。

要するに校長さんの上にいるわけですが、そのまま座って礼をするか、校長先生と一緒に立って礼を受けるかっていう、その違いなんですね。

◇教育長職務代理者（北澤正光） そうです。細かい話だけれど、確認しておく方がいいかと。

○教育長（熊谷邦千加） 北澤職務代理のご意見とするとどっちがよろしいでしょうか。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 校長先生に代表して立っていただいて、学校によっては教頭先生も立つところがあるのですよね。3人がこちらで立って返礼しているというのもあまりに仰々しいかなという感じがするので、学校を代表する方に立っていただいて、教育委員会は横で座ったままで返礼をするというのがいいのではないかと思うのですけれど、どうでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） よく大きな大会、教員がやる大会なんかでは、受ける方が立つっていう主催者側、お一人立つっていうことはやっておりますが。

◇教育委員（野澤稔弘） よく見る風景は1対1ですね。

○教育長（熊谷邦千加） そうですね。

そんなふうでよろしいですか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） じゃあ、来賓がこちらに向けて礼をしていただいたときも座ったまま礼をするということで進めたいと思います。

後ろにも出ましたが、今の動きとかあるいは告辞の文章等についても何かご意見がありましたら。

◇教育委員（野澤稔弘） よろしいですかね。

○教育長（熊谷邦千加） どうぞ。

◇教育委員（野澤稔弘） 告辞の朗読後に告辞文を「演壇に置いてください」と書いてあるんですけど、ご用意いただけるということですか。

○教育長（熊谷邦千加） はい。これはこちらで用意しますので、持っていていただいてそれを読んでいただくということになります。

◇教育委員（野澤稔弘） はい、分かりました。

○教育長（熊谷邦千加） さらにいかがでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） では、そんな形で準備をしてみますので、今の立ち方のところは確認できましたので、ありがとうございました。

もし途中で何かの事情で変更等が必要でありましたら、お知らせをいただければと思います。

ありがとうございました。

日程第8 陳情審議

○教育長（熊谷邦千加） 続いて日程第8、陳情審議。今回の陳情審議はございません。

日程第9 その他

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして日程第9、その他。

（1）教育委員報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 最初に（1）「教育委員報告事項」。

教育委員の皆さんから報告する事項がございましたらお願いします。

林委員さんからお願いします。

◇教育委員（林 綾子） 1月23日に浜井場小学校で市議会の出前講座というものがありまして、飯田市議の広報委員を務めていらっしゃる岡田議員からお誘いを受け、岡田議員も昨年度まで浜井場小の保護者でもあり、私も浜井場小には子どもがいるということで、教育委員としても見ていただきたいということで行ってまいりました。

新聞報道などもありましたので、ご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、広報広聴委員会に属している10人の議員さんが小学生25人に対してお話をしたり、グループで話し合いをしたりしたんですが、まずクイズなどを交えて議会について、「議会の定数、何人でしょう」とか、そういった形で少し場を和ませていただいて、その後で各5グループに分かれまして、子どもたちから事前に考えた質問を議員さんに投げかけるような形で進めておりました。

いろんなグループを回らせていただいて、中身を聞かせてもらったんですが、「年収はくらいですか」とか、「お休みはありますか」とか、すみません、先ほど申し上げませんでした、小学校六年生の一クラスですけれども、そういった子どもらしい発言もありました

が、「グラウンドを広くしてほしい」とか、「もっとお湯が使える場所を作ってほしい」とか、そういった学校施設への現実的な要望、あるいは「飯田市に水族館を造ってほしい」、あるいは「イオンモール、スタバなどがほしい」みたいな、それもちょっと子どもっぽいと言えば子どもっぽいんですが、ちゃんと理由も子どもたちも言うておまして、これからリニアが開業するに当たって、「やっぱり人にもっと集まってほしい」、「みんなで遊べたり集まれるような場所がもっとほしい」と、そういったちゃんと理由付けというか、子どもたちも感覚だけではなくて、これから飯田がどうなっていくのかっていうことを子どもたちなりに考えているのかなと思いました。

中には議員さんに対して、「飯田をこの後どうしたいですか」、後は「どうして飯田市の市議になったんですか」っていうような、とても鋭い直接的な質問などもありまして、市議さんたちもちょっとタジタジというか、そういう部分もありました。ですが、それぞれの議員さんたちが真摯に向き合っていて、「ちょっと分からないので調べていいかな」なんて言いながら、調べて、お答えする方もいれば、あるいは予算決算の書類を持ってきて、「こんなふうな議会ってのはやっているんだよ」、「こういうものにお金を使っているんだよ」みたいな、そういうことをそれぞれの思いを伝えていたのかなというふうに思います。

どのグループでも聞かれたのは、「今後、君たちが飯田の良いところをぜひいろんなところで伝えてほしいよ」とか、「飯田の良さを知ってほしいよ」というような、飯田市に対する思いを議員さんたちが伝えてくださっていた場面でした。

新聞報道でも子どもたちの感想などは出ていましたが、その後、学級で配られました学級だよりも子どもや先生の感想が載っておりました。先生は「情熱を持って市民のためにお仕事をしてきている議員さんの姿が分かりました」とか、子どもの感想としては、「議員さんに聞いたら『お休みは少なくてほとんどないです』と言われました。議員さんの仕事は大変だなと感じました」とか、「予算のことなどが聞けて、もっと時間があつたらもっと聞きたかったです」と、そんなふうな子どもたちが感想を寄せておりました。

今回見ていて、やっぱり子どもなりに飯田がどういうふうになっていくかってことを心配していたり、どうなってほしいっていう姿が、自分たちでも何か考えているんだなということにも感心しましたし、また議会や議員さんに目の前で接することができまして、主権者教育の第一歩なのかなと感じました。主権者教育ということでは議員の方との触れ合いっていうものもすごく大事ですけど、自分たちで何かを決めていく、何かを決めたり、変えたりしていくっていう経験がまたこれから学校の中でも経験できるといいなとい

うふうに感じました。

以上です。すみません、長くなりました。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

さらに続けていかがでしょうか。

三浦委員さん、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） お願いします。

それでは小中連携・一貫教育推進委員会と飯田市のキャリア教育推進フォーラムに出席させていただいておりますので、いずれも感想というところでお願いしたいと思います。

まず、飯田市の小中連携・一貫教育推進委員会につきましては、こちらは学識経験者で出席いただいている井出先生も言っておられましたけれども、それぞれの学校区の発表に対して本当に力強いってところ、私もとても感じられました。「活動への確かな自信を感じる」ということを井出先生も言われておりましたし、また具体的な報告で「やはり 12 年間の積み重ねの上にあったものだ」ということを言われておりましたけれども、これ前回の小中連携・一貫教育の席で確か井出先生がそれぞれの報告の後に、「課題ばかりに目を向けていらっしゃるんですが、いいところあるじゃないですか」というようなことを確か言われていたかなと思います。ですので、今回はそれぞれの本当にいいところ、こんなことやっているっていう、そんなご報告も多かったのかなと感じますし、それぞれの学校区、実際にこんなことをやっていてすごいでしょうっていう、そんなところを確かに感じ取るといったところが自分にもあったかなと感じました。それが 1 点。

そしてもう一つは、冒頭に宮下委員長から、「不登校が増えているけれど、そんなところはしっかりとコメントいただきたい」というようなお話があったかと思いますが、この不登校のことに关しまして、様々な観点からそれぞれの学校区でもお話していただいたかなと思います。やはりポイントとなってきたのは、人間観の不安ですか。多かれ少なかれ私たち大人にも、新しい人に会ったり新しい場所に行くときには、不安っていうものはあるものですが、こういった不安に対して、一歩出ていくっていうそういう人間関係の不安への対応といったところの大切さっていったものがポイントとして挙がっていたのかなと、そんなふうに思いました。

旭ヶ丘の中学校区にあるスリンプルプログラム、人間関係と育ちのサポートっていうことで、短時間 10 分くらいの人間関係に関する時間を設けて、そういったことで培ったものを授業内のワークでも使っていて、だんだん人間関係を構築していくっていう、ソーシャルスキルっていうものをちょっと身につけたりだとか、あと自尊感情って、人と対する

小中連携・一貫は、本当に先輩に憧れたりっていうそういった流れが大事だなということを感じましたし、また、キャリア教育フォーラムにおいては、周りの大人の対応であったり、工夫であったり、そういったものも好奇心や向上心を伸ばすのに必要なんだな、そんなところを感じさせていただきました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

さらにいかがですか。

野澤委員。

◇教育委員（野澤稔弘） 私は、全然いろいろなものに参加できず申し訳ありませんでした。

先月いただきました歴史研究所の資料だったと思うんですけども、その資料で恒川官衙の遺跡から阿智へ行く道っていうのはまだ特定されていないけれども、ほぼここだったんじゃないかみたいな論文が掲載されていて、それについてちょっと読ませていただいて、Aルートというのは確か今の153号線ですね。阿智からずっとこう来て。Bルートというのは実は、私の家の前を通過。Cルートというのは川路から来ていくっていうルートで、3つくらいあったんじゃないかというふうに書かれていて、結びにその方は「Bルートだろう」と話があって、「俺んちの前、7世紀からあったのか」と思ってすごいなと、面白いなと思って、論文を読まさせていただいて、本当にここに7世紀から道があって、関所がどうも三日市場にあったらしいという話なので、「駅」って書いてあったかな、それでそういうところを通過していたとすれば、いや、歴史深いところなんだなと思いました。ありがとうございます。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 偶然、今のお話と全くつながる話です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、では北澤職務代理。

◇教育長職務代理者（北澤正光） さっき教育長から下伊那教育会の全郡教科等研究まとめの会の報告があったのですが、下伊那教育会、実はその会と車の両輪のような位置づけで、郷土調査部研究発表会というものもやっています。先生方は、教科等の授業をどうつくるかという研究する各教科に分かれた皆さんと、郷土調査部とって飯田下伊那地域をフィールドとして、ふるさとを学ぶというか、ふるさとを研究する8つの委員会で研究をされています。コロナ禍の前までは、8委員会が毎年県文化センターで発表会をやって、皆さんが聞くという形でしたが、コロナ禍で対面の実施ができないのを逆手にとって、8つの委員会が毎年やると負担も大きいので、隔年で4つの委員会ごと発表をする。しかも場所を移動するのではなく、2週間はオンデマンド配信をされていて、そこでいつでも自分の都

合のいい時間に視聴ができるという形式に変わりました。そうやって今年で2年目です。今年もオンデマンドで配信されているものを視聴させてもらいました。

今年には西尾実委員会、地質委員会、歴史委員会、気象委員会の4つが発表しました。その中の歴史委員会が、今、野澤委員が話された話を発表していました。700年代の大和朝廷から東北まで続く約1,000キロの東山道が、この伊那谷・下伊那ルートはどこを通過していたかがまだ特定されていない。それを特定するために現地を踏査して、野澤委員が3ルートと言っていましたけれど、多くは4ルートになるらしい。その4つのルートのどこを通過していたかをこの委員会なりに特定していくというのが今年のテーマ。結論からいうと、野澤委員がお話されたとおりで、いわゆるBルートと言われているもの。Aルートというのは、山沿いの道で153号線に近いもの。Bルートというのはほぼこの伊那谷の真ん中を行くもの。Cルートは天竜川沿いの道。さらにDルートがあるとその皆さんは言っているのですけれど、どっちにしても、委員会が特定したのは、阿智村から水晶山を通過して三日市場を通過して、上郷、恒川官衙遺跡に抜けていく。史跡を全部つなぎ合わせていっても一番現実味のあるルートではないかと発表をされていました。

それから、地質委員会は富草地区に地層の露頭がたくさん見えるのですが、富草の露頭から1,800万年前、海底が隆起して今この辺ができていくという話。1,800万年前の海底の地形を推測する研究を、現地の地層を訪ね歩いて推定していく。結局、結論は起伏に富む花崗岩の幅広い岩盤の上に、今のこの伊那谷の地層が堆積したという発表。

そして、象委員会は、松川町は非常に川霧が濃く、それが良質の果樹栽培につながっているのですが、いろんなところにカメラを設置して、その霧が発生するメカニズムを解明するという研究。これも長く何年続けていらっしゃるのですが、そんな成果を発表してくれました。

今、学校でも子どもたちに探究の時間とか、総合的な学習の時間に自分でテーマを決めて主体的に学ぶということを盛んにやっていますが、先生方もこんなふうに地域について自らテーマを決めて、実証的に調査研究して発表するところまでやっている。一方では、働き方改革で業務を縮小していく部分もあるが、本当の意味での教育に関わる部分はこうやって、土日でも厭わず現地調査している。そういう姿を見させてもらい、研究成果を聞いていてとても楽しそうだし、これが本来の学ぶということなのだろうと思います。自分からテーマ決めて学ぶ楽しさを体現して、子どもたちにもこの成果を示してもらったりしていくことは、これからもすごく大事なことだと思いました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） それぞれの報告事項について、何かご質問等がございますか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

それでは次へまいります。

（2）教育次長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （2）「教育次長報告事項」。

◎教育次長（秦野高彦） ございません。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（3）学校教育課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして「学校教育課関係報告事項」。

倉田係長。

◎学校教育課教育企画係長（倉田 奨） 学校教育課教育企画係の倉田です。

それでは、本日お配りしました資料 15 ページ、資料No.2 をご覧いただきたいと思います。

1月23日に開催をいたしました、第5回飯田市これからの学校のあり方審議会につきまして、ご報告をさせていただきます。

第5回審議会では、第4回審議会の際に審議会にお示しをしました飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針のたたき台について、審議会委員の皆さんからのご意見を踏まえまして、補強・充実させ、たたき台から素案としたものを改めてお示しをしております。

第4回審議会の際にどのような意見交換が行われたかにつきましては、本日の資料の23ページから24ページにかけてまとめを掲載しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

それでは25ページをお開きください。

まず、飯田市立小中学校を取り巻く背景についてでございますが、審議会の中で「社会的な子どもたちの置かれている状況を含めた内容も記載すべき」というご意見をいただいておりますので、この2コマ目、それから次のページの3コマ目に学習指導要領の改訂や中央教育審議会の答申から、今の学校教育に求められている内容を背景として入れております。具体的には、新しい学習指導要領で「社会との関わり」が非常に重視されるようになってきているということ。また、従来のような教師が一方的に一斉指導を行い、それを単に知識として覚えるという授業ではなく、子どもたちが個々に興味関心を持って主

体的に学び、深く理解をしていく授業が求められているということ。このように、学校教育そのものが大きく変わってきているという背景があるということでございます。

続いて、27 ページ、5 コマ目のところをご覧くださいと思います。これまで飯田市が取り組んできた教育の特徴、3 点、ここに見出しとして載せておりますが、こちらにつきましても審議会の中で「これまでの取組の評価がきちんとできていない」ということ、「この構想を進めていく上で解決される課題やさらに伸ばせることをもう少し整理をしたほうがいい」、そういったご意見をいただきましたので、6 コマ目から13 コマ目までで、改めて取組の目的や経過、成果と課題、今後の方向性を整理しております。それぞれの個別の内容は、後ほど資料よりお読み取りいただきたいと思いますが、特に課題の点について申し上げますと、それぞれの取組に共通して言えますのが、コロナ禍の中で取組が停滞をしたということになります。そのため、今後の取組の方向性として、令和5・6年度には、取組を再構築する必要があるということ。その先でさらに取組を発展させていくということを改めて記載をしております。

14 コマ目をご覧くださいと思います。ページでいきますと31 ページになります。

3つの飯田市の教育の特徴の今後の取組の方向性の中でも出てきておりますが、飯田市の教育の特徴を生かし、さらに発展させていくという考え方を「飯田の『学園構想』」として改めて整理をしたのがこのコマになります。先ほどまでコマで、これまでの飯田の教育の特徴について、成果もある一方で新たな課題も生じているというところを整理してきておりますが、特に連携・一貫教育の成果と課題の上に立ち、新たな課題も捉えながらより確かで実効性の高い「一貫教育」を進める段階へと移行し、「確かな学力」、「生きる力」、「地域の担い手・支え手」を育むという構想で、これを現在の9つの中学校区ごとの小中学校を小中一貫型の小中学校とし、「学園」という名称にして進めていく、そういった構想になります。

このコマの中で、矢印の絵がありますが、これまでの小中連携・一貫教育は、小学校と中学校の接続部分を強く意識をした内容でしたが、教育のあり方や児童生徒の状況等の変化が生じておまして、これから目指す姿として9年間の一貫した学びを進めていくことを目指しております。

そして、この構想の柱となってくるのが、飯田のキャリア教育と飯田コミュニティスクールということになります。この2つは、それぞれ関連しあうものですので、この四角の囲みもつなげてありますが、ポイントとなりますのは、地域資源や地域課題を教材に地域ぐるみで地域の特徴を生かした取組としてくるということ。そのことによってより良い地

域づくり、より良い学校づくりにつなげていくということでございます。

32 ページ、16 コマ目をご覧くださいと思います。

ここでは学校施設の配置について記載をしております。学園構想ではまずスタートとしては、現在の小中学校の施設を用いた施設分離型の小中一貫の小中学校からスタートをするということ。ただ、今後の児童生徒数の減少や学校施設の老朽化が著しい中学校区・学園もありますので、そういったところから地域特性等にも配慮しながら施設配置形態を検討していくという考えでございます。

続きまして 34 ページをご覧ください。

こちらは学園構想全体の概念図となりますが、こちらにつきましても、第 4 回目の審議会の際に委員の皆さんからいただいたご意見を踏まえまして、目的等を修正しております。また、わかりにくい表現となっていた部分を修正したものでございます。こういったものをお示しいたしまして、第 5 回審議会の中では、委員の皆さんからは「大きい方向性としてはいいのではないか」、あるいは「地域の状況を見たときに、この方向で進めざるを得ないのではないか」と、そんなご意見もございましたが、そういったご意見を含めて、「方向性としては良いのではないか」というところでもございました。「ただ、市全体の方向性としてはこれで良いと思うが、児童生徒数の減少が極めて著しい地域では、優先的に議論を進めるべきではないのか」というご意見ですとか、「この学園構想は何のために進めるかという観点から、子どもたちの人間力・社会力を一層強固な豊かなものにしていくために学園構想が必要という、そういった議論を進めるべきではないか」というご意見。「学園構想を進めることによって、学びの形態が広がってくるのではないか」といったそんなご意見等をいただいたところでございます。

今後の進め方としまして、まず今年度末を目途としまして、この学園構想について審議会からの第 1 次答申をいただきたいと考えておりまして、3 月に開催をいたします第 6 回審議会にて、第 1 次の答申の案をまとめていただき、その後、第 1 次答申をいただくことを想定しております。第 1 次答申をいただきましたら、それに基づいて教育委員会としての方針案をまとめ、市民の皆様にも広くご意見をいただくということを考えておるところでございます。

私からの説明は以上となります。よろしくお願いたします。

○教育長（熊谷邦千加） はい、第 4 回の審議の 23 ページ・24 ページをご覧くださいと、およそのことがみえてくるかなと思います。

職務代理は出席いただいておりますので、何か補足することありますか。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 特別のことはありませんけれども、子どもの減少の率が高い地域の皆さんから切実なお話がありました。例えば、「保育園で一緒にいるのに小学校へ進学したら一緒にいた保育園の仲間が別れてしまって、中学に行ったらまた一緒になるというような、ちょっとギクシャクした状況が生まれてくるので、もう少し早くそれに対応してくれないか」といった話は、確かに頷ける部分だと思います。つまりこちらで進めているスピードよりも、地域で切実に感じている問題の方が速い。地域全体じゃなくて当事者の保護者の皆さんが一番切実だと思うのですが、感覚的にそちら側の方が早く進んでいる。今説明のタイムスケジュールは分かるのですが、その地域や保護者の方の切実な声を受け止めると、若干このタイムスケジュールが動くことあるのかなと思いついて聞いていたところです。

ただ、急ぎすぎると、いろんなお考えの方がいらっしゃるので、せっかくここまで丁寧に進めてきているものが、壊れてしまったとならないように進めていくことが一番大事ななと思っています。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ご質問、ご意見がありましたらお願いします。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） 後でもう一度確認する時間もありますので、もしお気づきの点がありましたら、またお願いをいたします。

（４）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（４）「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」。

伊藤生涯学習・スポーツ課長。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤 弘） それでは資料 35 ページをお願いいたします。

冬季ジブン・チャレンジ期間、特に 11 月から 1 月ということ、その間に行われたそれぞれの地域移行を見据えた取組の報告をさせていただきます。

1 番については、1 月 7 日に行われました「アートのじかん」でございます。

創造館の利用団体の皆さんにもご協力をいただきながら、（４）番に記載のそれぞれの分野で、延べで 24 名の参加でございましたが、実人数 21 名でありますので、複数の分野を体験した生徒さんもいらっしゃったという状況でございます。

（２）の文化講座でございますけれども、こちらはムトスぷらざで行いまして、（４）番に申込み時点の状況を記載しております。実際の参加者は 15 名でありましたが、この開催期間時間中にそれぞれのいろんなところを見て回れるような形で開催をいたしましたので、そ

それぞれ申込み以外のものも体験をいただいておりますし、「丘のりんご」の皆さんも途中から参加をして一緒に活動をしていただく、そんなような機会になっております。

3番のところにアンケート等をまとめてありますけれども、参加した生徒からは「新しい体験ができたので良かった」ということや、「地域のいろんな皆さん、地域の大人から得意分野を教わりたい」といった感想がございます。協力をいただいた団体の皆さんも「活動を知ってもらいたい機会になった」ということや、「こうした機会を定期的に設けていきたい」、そういったご意見をいただいております。

おめくりいただいて、36ページでございますが、こちらは飯伊地区のジュニア期の文化芸術・スポーツ活動検討委員会の小委員会で行われた「エンジョイスクエア」の報告でございます。

実施期間は11月・12月の2カ月間でございますが、2番にありますように、延べ580名の参加、そのうち飯田市が368名ということで、その下に活動の内容に合わせて、小学生・中学生それぞれの参加人数を記載させていただいております。

もともとは中学生を中心に考えたわけですが、それぞれ民間の皆さんも含めて、講座を主体的に開催したいという方が活動の内容に合わせて小学生も参加がOKですという形で開催をしておりますので、記載のとおりでありまして、特にスポーツに関しましては、網掛け部分が全市型スポーツスクールと重なる種目となっております。今回は主体的な取組として、地域での受け皿も試行錯誤の一つとして開催をしておりますが、スポーツ協会の皆さんからは若干戸惑いがありましたので、こういったところをこれから整理していく上で課題かなというふうに捉えております。

以下アンケートの内容につきましては、また、ご覧をいただければと思います。

おめくりいただいて38ページをお願いいたします。

第38回「飯田やまびこマーチ」、年度変わります、4月27・28日に開催をいたしますが、実行委員会で募集要項等をまとめまして、現在、参加者の取りまとめをスタートしております。

目的や重点的な取組についてはご覧いただきたいと思いますが、5番のコース設定のように両日ともそれぞれ5コースを設けて開催をしております。

39ページにまいります、下段にありますけれども、昨年との変更点としますと、大きく3つございます。当日の申込み、昨年はこの地域の皆さんだけ当日申込みを行いました、全ての皆さんも当日受付をしていくことや、あわせて、特に連休の入り口の日程になりますので、前日受付をしながら県外からの方も宿泊をしてもらいながら飯田に先に入っ

ていただいて、観光も含めて楽しんでいただけるような大会としてまいります。

また、主会場の中には飲食についてもキッチンカー等を設けて始めていきたいということで、こんな形で計画をしております。

あとお手元にこういったやまびこマーチのチラシをお配りさせていただいております。3月1日には実行委員会で記者会見をしながら、3月29日まで申込みを受けてまいりますので、また興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひお声かけをいただければと思います。

説明は以上でございます。よろしく申し上げます。

○教育長（熊谷邦千加） はい、この2点につきまして何かご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

北澤職務代理。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 今の35ページ・36ページの文化講座、それからエンジョイスクエアに関わってです。いろいろなものを用意しても一歩踏み出してもらうというそのところが、何を企画しても一番悩むというか、難しい部分だと思うのですが、36ページの一番下のアンケートの結果を見ると、「この講座で本当に楽しかった」それから、「次もあったら参加しますか」というこの結果が圧倒的なのですよ。

踏み出すという部分のハードルをすごくクリアしている。この講座自体が普段の学校や家にいただけではなかなか体験できないような講座が、これだけ充実して準備されている。その結果がこういう形になったのかなと思うわけで、しかも今までお聞きしている範囲だと、案内が出されたのは中学生だけなのですよ。ところが蓋を開けてみると、小学生がこれだけ参加している。この状況を見ると、来年以降もこれが続くとしたら、参加範囲やPRを小学生の中学年から上ぐらいの対象にまで広げてもいいのではないかと。受けるほうが人数多くて大変になってしまう可能性もあるのですが、そんな思いを持ちました。このエンジョイスクエアと、それから文化講座のところに、部活の地域移行のことも含めて、今後の活動へのヒントあるのではないかと思いつきながら見させてもらいました。

これが進んでいくと、子どもたちの中に新たなコミュニティが生まれる。小学校と中学校単位だけの話ではなくて、何回か参加していったら、学校や地域を越えて顔見知りの子ができ、仲良しの子が全然違う学校や地域にできるというのは、子どもたちのこれからを開くという、そういう働きもしているのではないかと。外に出て人と関わって自分の好きなことを活動するということの楽しみは、ひとりでスマホ等に関わっているだけとは違う楽しみや可能性を示してくれるものになるのではないかと。といったことを思います。来年以降

もこれは続くと思うのですが、参加範囲をどうするかといったところをニーズに合わせて、上手に持っていくと結構いろんな可能性が湧いてくるのではないかと思いました。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ほかにご質問、ご意見等ございますか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） では続いて次へまいります。

（５）文化財保護活用課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （５）「文化財保護活用課関係報告事項」。

◎文化財保護活用課長兼考古博物館長（宮下利彦） 特にございませぬ。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（６）公民館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （６）「公民館関係報告事項」。

上沼副館長。

◎市公民館副館長（上沼昭彦） 特に資料等は用意してないんですが、明後日 18 日の日曜日に飯田市公民館大会、大変お世話になりますが、よろしく願いいたします。

教育委員の皆さんは、公民館大会に先立ちまして、飯田市教育功労者表彰にご出席いただきますので、12 時 30 分までに展示室 3 に受付をしていただいでお越しただければと思います。

よろしく願いします。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ご案内は行っているわけですかね。

（７）文化会館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（７）「文化会館関係報告事項」。

下井館長。

◎文化会館館長（下井善彦） 本日、文化会館のニューズレターとオケ友のご案内を用意させていただきます。

ニューズレターは第 9 号ということで、こちらについては、新しい文化会館の整備検討委員会の報告という形にはなっておりますけれども、開いていただくと前回説明いたしましたが、基本構想の概要ということで、そのままのものになっております。またご覧いただきたいと思ひます。

それからオケ友のパンフレット、チラシをご用意いたしました。5月3日から6日ということで予定されております。

教育委員の皆様には視察の予定をされておりますので、また近くになったらご案内を申し上げます。よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい。大体視察は、例年でいくと5月3日のそよかぜコンサート、クリニックコンサート辺りの。

◎文化会館館長（下井善彦） そよかぜコンサート、あとクリニック、その日辺りの予定です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

（8）図書館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続けてまいります。「図書館関係報告事項」。

瀧本館長。

◎中央図書館長（瀧本明子） お願いします。

40 ページの資料No.5をご覧ください。図書館の千代分館の千栄分室の開館日の変更についてご報告をいたします。

飯田市は、市域が広いために、中央図書館から遠くにいても図書館のサービスが受けられるように16の分館と1つの分室がございます。分館の設置は、小学校区に対応しております。千代地区には千代分館と千栄分室がございます。この千栄分室の開館日を令和6年の4月から水曜日と土曜日の2日間から、水曜日のみの開館といたします。

千栄分室の設置の経緯や概要につきましては、3に記載してございますので、またご覧いただきたいと思ひますが、千栄分室の元となりましたのは、お母さん方が子どもたちに本に出会ってほしいということで、自分たちで文庫を設けて本を調達したというのが始まりでした。

水曜日のみの開館にすることになりました経緯ですけれども、千栄分室はほかの多くの分館と同じように、学校の帰りに寄りやすい水曜日と学校がお休みの土曜日に開館しておりました。ところが土曜日の利用がほとんどない状態が続いておりましたために、令和元年の6月から、土曜日を休館とする試行を行ってまいりました。

利用の状況でございますけれども、水曜日は月に1回から2回、千栄保育園の子どもたちがみんなで来館して下さりまして、読み聞かせを聞いて本を借りてくれております。また、小学生も学校帰りに寄って宿題を行うなど、子どもが集う場所になっております。

平成 29 年頃から土曜日の利用が減少してしまいまして、学校や保育園のお休みの土曜日の利用については、貸出当番の係員とその子どもだけという状況が続いておりました。土曜日につきましては、千栄地区の皆さんも千代分館を利用いただいております。

試行の期間が長くなりましたが、結果、地区の方や学校などからご意見もなく、また先月、千代のまちづくり委員会でも説明をさせていただきましたが、ご意見はございませんでしたので、4月から千栄分室は水曜日のみの開館といたします。

今後も水曜日につきましては、保育園の団体利用を継続していただいて、子どもたちが絵本の楽しさを体験する機会をつくってまいります。また、小学生も学校帰りに寄ってくださっておりますので、気軽に本に親しんだり、居場所として居心地のいい図書館となるように取り組んでまいりたいと思っております。

千栄分室の開館日の報告は以上です。

次に、2点、行事のご案内をさせていただきます。

本日チラシをお配りいたしました。1つ目が2月24日土曜日に行います図書館のビジネス支援講座、「DXはじめのいっぽ、地方ならではの共助ビジネスとは!？」というものです。

こちらの講師においでいただく福野泰介さんという方は、「I c h i g o J a m」という子ども向けの優しいプログラムを開発した方です。「R a s p b e r r y P i」という名のソフトがあるんですけども、それが結構ややこしかったということで、ご自身で「I c h i g o J a m」を開発して、書籍などでも紹介をされておりますけれども、全国的にも子どもたちがプログラミングを学ぶときに使われているものを開発したという方です。現在も不便だと思うことをDXで解決する「一日一創」ということをされて、SNSで発信をされています。

この方においでいただいて、DXとはどういうものか基本的な考え方を知っていただいて、自分の生活に役に立つために生かせるものがあるのではないかというお話をしていただきます。この講演会の後に、子どもたちのプログラミング講座が予定されておまして、それは飯田市のデジタル推進課で行うんですけども、それも福野泰介さんが講師を行う予定になっています。

もう一つ、緑色のチラシですけども、こちらは第27回伊那谷地名講座ということで、2月25日の日曜日に行います。

この伊那谷地名講座は、伊那谷地名研究会の皆さんと一緒に開催しているもので、現在この講座は「中馬街道の歴史と地名」というシリーズで行っておりまして、何年か前から

1年に2回くらいのスパンで講座を行っております。これまで伊那街道を南から講座で取り上げてきておりまして、阿智、伊賀良、鼎、飯田が済んで、今度は上郷の伊那街道について、歴史や石碑などの解説をしていただきながら学ぶというものになっております。

講師は中島正韶先生です。

こちらでも定期的な開催となって楽しみにしてくださっている方がいらっしゃいます。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 質問ご意見については、後でまとめていただきたいと思います。

（9）美術博物館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（9）「美術博物館関係報告事項」。

牧内副館長。

◎美術博物館副館長兼歴史研究所副所長（牧内 功） それでは、美術博物館では3件ございますのでよろしくお願いいたします。

最初に美術博物館館長の交代でございます。館長の任命につきましては、飯田市美術博物館条例の第12条によりまして、「美術博物館に、法第4条第1項及び第3項の職員のほか、必要に応じ事務職員、技術職員、その他の職員を置く」というふうになっておりまして、重要な職務がございますが、教育委員会の任命をいただくという、そういう規定になっておりませんので、議案等を提出しての承認をいただくということではなく、報告のみとなっておりますので、この点につきましてご了承いただきたいと思います。

今回の館長交代の経緯でございますが、令和4年度中に滝沢館長から高齢を理由に令和5年度末をもって館長を退任したいとの申し出がございまして、滝沢館長の意志を尊重しまして、後任館長の選任に向けまして、前回館長が交代したのはもう18年前になるわけですが、その先例を参考にしながら、現在の美術博物館の状況や現場の意見を取り入れながら、選考の方針や方法、日程案について検討を重ね、4年度末に選出の計画を立ててございます。

その計画に基づきまして5年度に入りまして、美術博物館の中で館長になる候補者案を作成し、教育委員会の事務局に提出し、そのうち前回の交代時と同じく教育長、教育次長を含みます美術博物館に関係する団体や機関から選出された選考委員会によりまして、美術博物館館長選考委員会を設置しまして、委員会で選考結果として館長候補者を選定しております。その後、その候補者に美術博物館館長の就任の依頼をし、就任の受諾を得られたことから、本日、報告ということに至っております。

1 番に書いてありますとおり、滝沢館長におかれましては、令和 6 年、今年度末をもって退任されまして、平成 18 年 4 月 1 日から第 2 代目の館長として就任され 18 年お務めいただいております。

今回、退任を記念しまして、日本画家であります滝沢館長の企画展を開催するというこ
とで、現在、美術博物館で所蔵しております全ての作品と新たに寄贈いただける作品を初
公開するというこ
とで、3 月 30 日から 5 月 26 日まで、美術博物館の展示室の A と B という
スペースを使いまして開催をいたします。観覧料につきましては、常設展と同じ料金にし
てございます。

後任の新しい館長につきましては、来年度 4 月 1 日から新館長に蜂谷充志さんが就任を
いただきます。

プロフィールの詳細につきましては、資料の裏面にまで載っておりますが、蜂谷充志さ
んは 1963 年飯田市生まれで 60 歳になる方です。現在は、静岡県の富士宮市在住で、現在の
お仕事は常葉大学造形学部造形学科の教授でありまして、専門の分野、経歴は記載のと
おりです。

蜂谷さんは、現在も常葉大学の教授と同時にご自身もアーティストとして作品を創作す
る活動もしてございまして、これまでの受賞歴や主な展覧会、あとは大学での論文等につ
きましても裏面に記載したとおりでございます。

飯田市に関係があるところでは、昨年、飯田市の美術博物館を含めます 5 つの展覧会を
巡回展として開催しました特別展「美術と風土－アーティストが触れた伊那谷展」にもご
自身の作品を出展しております。また、学輪 I I D A の研究者として、昨年 1 月の学輪 I
I D A 全体会への出席等、このようなこともしてございます。飯田市出身で美術に関する造
詣が深く、アーティスト活動という形で作品を作ったり、それを論じたり、またその活動
を実践と理論で学生と接しながら教育活動もされているということから、美術博物館の館
長として適任と判断しましてお願いすることになりましたので、よろしくお願ひいたしま
す。

それでは、次の「びはくにゅーす」を続けてご説明をさせていただきます。黄色いチラ
シをご覧ください。

3 月予定しております美術博物館の主催事業を記載してございます。展示につきましては、
工事休館から再開します 3 月 9 日から 4 件の展示を予定してございまして、先ほど報告
しました 3 月 30 日から滝沢館長の退任を記念した企画展を開催します。滝沢館長との関係
は、3 月 16 日・17 日の 2 日間、日本画の実技講座を開催し、3 月 31 日は 15 時からア－テ

イラストトークとしまして、企画展で展示しております作品につきまして滝沢館長による作品解説を行います。1階ロビーには、3月9日から美術博物館のスタッフや関連する団体の研究者の調査研究をポスターとして展示し、3月20日に学芸員がポスター前で説明し、ディスカッションを行うポスターセッションを予定しております。

裏面にいっていただきますが、プラネタリウムも開館と同時に再開するという予定で、通常のものには左側を書いてありますが、右側にあります3月9日・10日に防災イベントを開催ということで特別投影としまして、仙台市天文台が制作しました東日本大震災当日の夜をテーマとしました「星よりも、遠くへ」という番組を2日間続けて投影をします。また、あわせて防災ミニ展示ということで、ホームセンターや100円ショップで買える防災グッズ、あとは避難計画の立て方や防災マップの見方など、防災意識を高めるためのそんなイベントをさせていただきます。

また、プラネタリウムまつりというのを毎年行っているわけですが、今年は3月24日に行います。プラネタリウムができて100年を記念するということで、今回は特別投影としまして3月24日の13時30分から現在日本に避難しています、ウクライナのハルキウのプラネタリウムで7年間解説員をされていたオレナ・ゼムリヤチェンコさんをお招きしまして、ウクライナでのプラネタリウムの解説をしていただきます。こちら料金は無料ですが、3月8日からの電話予約の先着順となっております。

あと3月16日の伊那谷自然史発表会、3月17日はトピック展示に関連しました文化講座を開催する予定でございます。関心のある催しものがありましたら、ぜひご参加をお願いいたします。

もう1枚ございまして、「ウキウキ春のジュニア月間」ということでありますが、期間は3月9日から3月31日までとなっております。約5カ月間、長期の工事明けの開館ということで、今年度の小中高校生を対象としました子ども美術学校、中学校造形教室、藤本四八記念小中高校生写真展の作品の展示を行うことから、春休みを迎えます小中学生、高校生の観覧料を減免して無料にすることで、活動の周知と来館の機会につなげて、美術博物館の再開をアピールしたいということで、期間中、菱田春草の複製画展ということになることから、一般の料金につきましても常設展の金額を一部軽減しまして、来館を促したいと考えております。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(10) 歴史研究所関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて「歴史研究所関係報告事項」をお願いします。

牧内副所長。

◎美術博物館副館長兼歴史研究所副所長（牧内 功） それでは「歴研ニュース」128号をご覧ください。表紙の明日あります20周年ワークショップは、先月チラシで報告しましたので、省略させていただきます。

開いていただきまして左側2ページにつきましては、今年度7月から採用しました岩田・伊藤2名の研究員が新年度から新たにゼミを開始しますので、その紹介文となっております。

右側3ページの上段につきましても、先月報告しましたので省略させていただきます、3ページの下段ですけれども、3月23日・24日に飯田アカデミア第102講座ということで、「ロシア史を権力と民族から考える」と題しまして東京大学教授の池田嘉郎さんを講師に開催します。

今回は、7月に開いた歴史研究所の協議会で「ロシアとウクライナの紛争に関連した講座をぜひ飯田アカデミアで開催したらどうか」という意見が出されまして、これに応える形で開催するものでございます。時間がありましたらオンラインや関心のある部分だけでも結構ですので、参加いただければと思います。

最終ページ4ページでございますが、定例の研究会のほか、研究活動助成報告会としまして、今年度、歴史研究所の研究活動助成を受けました東京外国語大学の島田さんによる研究成果の報告をされます。

また、3月9日東京外国語大学でワークショップ「山里社会におけるモノと人の循環、文化の開花」が開催されますが、これは歴史研究所の吉田ゆり子顧問研究員が研究代表者として科学研究助成事業を受けた事業の報告ですけれども、歴史研究所の研究員や市民研究員も共同研究者として参加し発表がありますので、研究内容の成果報告ということでここに記載をさせていただいております。関心がございましたら、またお問い合わせをいただきたいと思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

ここまでの報告事項、後半ですけれども、図書館、千代分館千栄分室の開館日の変更、それから美博の館長の交代について大きな内容のものもございましたが、ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

(11) 今後の日程について

○教育長（熊谷邦千加） それでは(11)今後の日程について。

櫻井課長補佐。

◎学校教育課長補佐兼総務係長（櫻井英人） 資料3ページをお開きください。

17日は歴史研究所のワークショップ、18日は飯田市公民館大会が開催されます。続いて21日に飯田市校長会、22日に飯田市教頭会、また翌週26日に総合教育会議がございます。

3月の定例会は14日木曜日、また3月29日には臨時会を予定しておりますので、ご出席をお願いします。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 日程等について、ご質問等ございますか。

(発言する者なし)

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

本日予定された議案については、これで全てでございますけれども、何か言い漏らしたような発言等ございましたらお願いします。

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございました。

日程第10 閉会

○教育長（熊谷邦千加） それでは日程第10、閉会。以上をもちまして2月定例会を終了といたします。ありがとうございました。

閉会 午後4時23分